

農業

令和8年4月号
会誌 No. 1742



目次

巻頭言

稼げる農業と儲かる農業……………香山 勇一 3

論壇

法人経営体をめぐって……………寺島 一男 4

農業・農村担い手問題研究会

「第10回農業・農村担い手問題研究会」の開催について
「地域の課題を農業で解決する」……………井上 桃子 6

農事功績者座談会

地域資源を有効活用した多品目の園芸と6次産業化……………藤嶋佐久榮 21
—海外に学び、自然を見つめ、独創的アイデアと実行力で挑む—
現地指導者のコメント……………大信田文也 28
意見交換……………29

表彰農家訪問

シクラメン生産で地域復興に尽力……………腰岡 政二 37
—根本修二さんを福島県南相馬市に訪ねて—

統計情報

二酸化炭素濃度の増加（1987～2025年）…………… 46

表彰

令和7年度大日本農会賞の受賞者……………47

編集部から	51
令和7年度全国農業大学校等プロジェクト発表会・	
意見発表会の受賞者について	52
農政情報	53
大日本農会だより	54

表紙写真説明：シリーズ農村の伝統祭り

神田祭（どろんこ祭り） （高知県 高知市）

神田祭は、山内家二代藩主忠義公の時代に始まったと伝えられる豊作祈願の田植え神事で、一名「どろんこ祭り」とも呼ばれています。土佐路に春本番を告げる風物詩として、広く知られています。

忠義公が領地検分のため長浜の地に立ち寄られ、畦道を歩かれるうち、早乙女の投げた早苗が泥をはね、忠義公の袴の裾を汚してしまいました。供侍が無礼討ちにしようとしたところ、忠義公は「このような所を歩いていた我々こそ農作業の邪魔になろうというものだ。おおいに農事に励むように」とお誉めの言葉を仰いました。これを見た人々は互いに泥をかけ合って喜びあったことから、「どろんこ祭り」が始まったと言われています。なお、一説には、長宗我部時代にこの地区で流行した疫病を鎮めるために、若宮八幡宮に神田を奉納せられたことから、神田祭りが始まったとも言われています。

4月の第一土曜日、氏子を中心に男女がそろいの浴衣で神社に集まり、早苗と「かこ」と呼ばれる白米のお握り状の神饌物を神前にお供えし、豊作祈願の神事を行います。その後、一同、神社外苑の神田へ向かい、早乙女達によって田植えが始まります。田植えが終わると女性軍はそこら中にいる男性の誰彼構わず、泥を塗り始めます。泥を塗られた方は「ありがとうございます」とお礼をいうならわしになっています。これは稲を産み育てる泥をわが身に付けてもらうことによって、泥の持つ生成発育の精気をわがものとする事ができるという、昔から伝わる土に対する信仰心と結びついたものかもしれません。

（写真および文：若宮八幡宮）